

## 新年のご挨拶 本年もよろしくお願い申し上げます

皆様には平素より格別のご愛顧をたまわり、厚く御礼申し上げます。

2025年は、国際社会が依然として多くの地政学的課題を抱え、ウクライナ情勢や中東における対立構造の長期化など、不安定な状況が続いた一年でありました。また、主要国における政権交代や政策転換をはじめ、世界の政治・経済環境には大きな変動が見られ、為替・金利・物価はいずれも高い変動を示すなど、企業経営を取り巻く環境は不確実性が一段と高まった一年でした。一方、国内では持続的な賃上げや堅調な設備投資、消費の回復など、経済全体を下支えする動きが見られ、日経平均株価は史上初の5万円台を記録するなど、前向きな動きも確認されました。

このような状況の中、当社グループの上期業績は、引き続き生成AIの普及・拡大によるデータセンタ投資が活況となり、情報通信事業部門の利益が計画を大きく上回りました。エレクトロニクス事業部門は生産性改善の遅れや競争激化の影響を受け減益となりましたが、自動車事業部門は黒字基調を維持し、エネルギー事業部門も国内の電線需要が堅調に推移し、かつ好採算製品の出荷増や売価改善によって増益を確保しました。

下期については、上期の進捗及び事業環境を踏まえ、業績予想を上方修正しました。この結果、2025年度の業績見通しは

売上高1兆1,090億円、営業利益1,790億円、経常利益1,840億円、当期純利益1,320億円と、いずれも過去最高を更新する見込みです。売上高は初の1兆円超、当期純利益も初の1,000億円超となる見通しです。

2026年度は新たな中期経営計画が始まる節目の年となります。現在策定中の次期中期経営計画は、2028年度までの3カ年計画として、本年5月に発表を予定しています。

フジクラはこの5年間で大きな変化を遂げ、業績も拡大してきました。しかし今、フジクラは将来に向けた重要な分岐点に立っています。変化を止めれば、かつての姿に戻ってしまう危うさもあります。だからこそ、次期中期経営計画では、「攻めの選択と集中」に舵を切り、成長分野へのリソース投入を加速させていきます。

これからの時代も、新しいことに挑戦する「進取の精神」と、高度な技術を探求する「技術のフジクラ」をDNAに、顧客の価値創造と社会に貢献することで、フジクラを未来ある高収益企業にすべく挑戦し続けます。

本年もフジクラニュースを通じて、当社グループの技術や製品情報を積極的に紹介してまいりますので皆様の変わらぬご愛顧を賜りますようお願いいたします。



取締役社長 CEO  
岡田 直樹

## 車載電源分配ボックス用リレー氷結シミュレーション手法の紹介

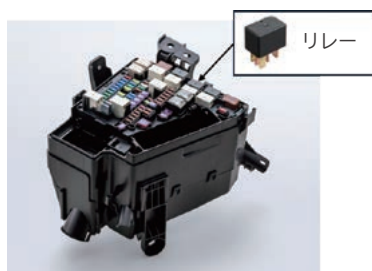
当社はリレーやヒューズを搭載し、車両システムへの電源分配および回路保護を担う車載用電源分配ボックス（メインヒューズボックス、ジョイントボックス）を提供しております。これらの製品には、過酷な環境下でも確実かつ安定した動作が求められ、とりわけ厳冬期におけるリレーの氷結耐性は、重要な性能要件の一つとなっています。

リレー氷結とは、エンジン停止後にリレーの通電がOFFになった際、電源分配ボックス内のリレー接点部の熱が急速に失われることで、接点部と接点周辺の温度差が一定以上になると、接点部に結露・氷結が生じ、導通不良によりエンジンの再始動が不能となる現象を指します。当社では、このリレー氷結耐性に優れた電源分配ボックスの開発に取り組んでおり、その一環と

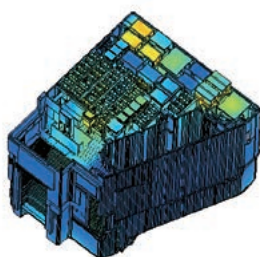
して、設計段階においてリレーの氷結リスクを評価するため、熱シミュレーション技術を応用した「リレー氷結シミュレーション手法」を構築し、リレー単体の詳細な内部モデリングとアセンブリ品解析への統合により、リレー接点部の局所温度変化を定量的に評価可能となりました。

また、本手法により、リレー接点部の急冷を抑制するための構成部品の形状検討や電源分配ボックス内部の部品配置の最適化を、従来の試作・実機評価に依存することなく、試作レスで効果的に実施することが可能となりました。

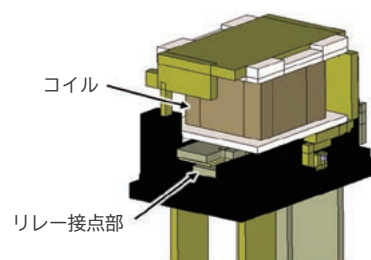
当社は、本解析技術を通じて、顧客の課題解決に確実に貢献する製品開発を進めていきます。



メインヒューズボックス

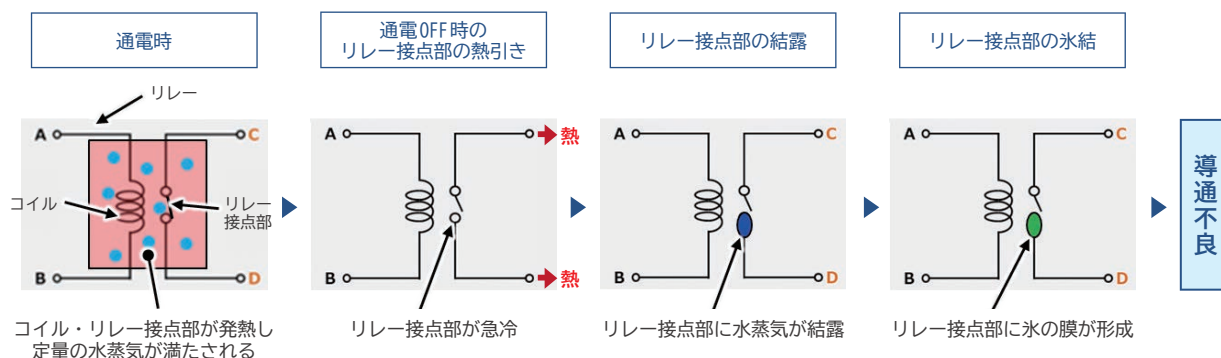


アセンブリ品のリレー氷結シミュレーション



リレー単体の内部モデリング

### ■ リレー氷結のメカニズム



### ■ SDGs17 目標に該当するポイント

当社の解析技術を通じて、顧客の課題解決に確実に貢献する製品開発を進めていきます。



✉ 自動車事業部門: ask\_automotive@jp.fujikura.com

## 外装意匠部品実装立体配線メンブレンの開発

当社は電子回路と樹脂筐体を一体化する「立体配線メンブレン」を開発しました。この技術により、平面回路を立体的に成形でき、凹凸や曲面を持つプラスチック部品にも回路形成が可能です。

当社独自の高温伸長性インクと精密印刷技術を用いることで、ABSやポリカーボネートなどの熱可塑性基材上に多層回路を形成できます。従来の熱可塑性基材上への直接印刷法は、基材耐熱温度の制約により低抵抗化や屈曲性に課題があり、フィルムインサート法では曲面など複雑形状への対応が困難でした。そこで当社は、印刷形成した塗膜回路を成形用熱可塑性基材に転写する「転写法」を採用し、高温焼成による低抵抗化を実現しました。さらに、印刷塗膜単体層を配線として引き出すことで外

部端子との接続部に屈曲性を付与することができ、さまざまな複雑形状にも対応可能です。この立体配線メンブレンを意匠板としてそのまま使えるように、射出成形による筐体化にも取り組んできました。射出成形時に発生するモールド樹脂の熱や応力によるさまざまな課題を解決し、外観意匠性と電子回路としての特性を両立した立体配線製品を開発しました。これにより、外装意匠部品として提案可能となり、車載用スイッチや半球状トラックパッドなど、動作可能なプロトタイプを作製し、多様なアプリケーションとの親和性を確認済みです。さらに、部品実装した立体配線品も実現しています。

「フジクラ転写法」は設計手法と量産体制を確立しており、従来工法に比べ高機能・高耐久な立体配線を提供します。



車載用ステアリングスイッチ



立体静電トラックパッド  
(上：平面回路の立体化 下：立体回路を組み込んだトラックボール)



部品実装立体配線品

### ■SDGs17 目標に該当するポイント

サブトラクト法よりも環境に優しいアディティブ法により作製されているメンブレン製品を普及させていくことでCO<sub>2</sub>排出量の削減にも寄与できると考えています。



✉ 電子部品事業部：ask\_mbsw@jp.fujikura.com

## フジクラ テクニカル レビュー発行のお知らせ

フジクラ テクニカル レビュー(FTR) 55号オンライン版を発行しました。FTRは、2025年7月に発行したフジクラ技報138号に掲載した論文の英語版です。宇宙光通信に使用する光ファイバの開発や、光学部品の実装に使用される接着剤の硬化挙動解析など、産業面・学術面で注目される8本の論文を、世界各国の技術者・研究者に向けて発信しています。

フジクラ テクニカル レビュー 55号  
<https://www.fujikura.co.jp/en/research/technical-report/>





## JANOG57ミーティング出展のご案内

当社は、2026年2月11日(水)～13日(金)に大阪府のコングレコンベンションセンターおよびJAM BASEで開催される「JANOG57ミーティング」に出展いたします。本イベントは、日本ネットワークオペレーターズグループが主催し、ネットワーク運用者のみならず多様な業界関係者が一堂に会し、最新の技術や課題について議論・交流する場です。急速に成長するデータセンタ市場やクラウドサービス、AIなど、デジタルインフラストラクチャの進化に関する最新情報が集結するため、多くの注目を集めています。

当社ブースでは、データセンタや通信インフラの高度化・大容量化に不可欠なものを中心に、幅広いソリューションをご紹介します。次世代超小型MMC光配線ソリューション、細径高密度型光ファイバケーブル(SWR®/WTC®)、One-Click® Cleaner PRO、光ファイバ融着接続機など、生成AIの普及・拡大を背景としたデータセンタのネットワークオペレーションに貢献する製品群を展示する予定です。

皆様のご来場を心よりお待ちしております。

\*SWR®、WTC® およびOne-Click® は、当社の登録商標です。



公式サイトURL  
<https://www.janog.gr.jp/meeting/janog57/>



日時

2026年2月11日(水)～13日(金)

場所

コングレコンベンションセンター/JAM BASE  
フジクラブース 57

### POINT①

省スペース・高密度化を実現する次世代超小型MMC光配線ソリューション

### POINT②

大容量・高速通信を支えるSWR®/WTC®と光通信部品

### POINT③

現場作業の効率化・品質向上に貢献するOne-Click® Cleaner PROや光ファイバ融着接続機

### POINT④

業界動向の把握やネットワーク構築に役立つ情報・交流の場



光ファイバケーブル (SWR®/WTC®)



One-Click® Cleaner PRO

### ■SDGs17 目標に該当するポイント

デジタルインフラの高度化と環境負荷低減を目指したネットワークソリューションの提供を通じて、多様な関係者と協力し持続可能な社会の実現に貢献します。



✉ 光コンポーネント事業部: [opticalcomponents@jp.fujikura.com](mailto:opticalcomponents@jp.fujikura.com)

**Fujikura** 株式会社フジクラ Fujikura Ltd.

“つなぐ”テクノロジー™ 製品ニュース No.509 / 発行: 2026年1月

編集兼発行責任者: 山田 由美

〒135-8512 東京都江東区木場1-5-1 <https://www.fujikura.co.jp>

■ 本号に関するお問合せ 広報グループ [wwwadmin@jp.fujikura.com](mailto:wwwadmin@jp.fujikura.com)

**UD  
FONT**

見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

